

野尻湖の広域多項目水質観測からみた 水質分布の空間特性把握

令和 6 年 2 月 坂田 陽紀

要旨

目的

湖沼は国民の生活にとって重要な資源であるが、水質汚濁による利水障害や生態系への悪影響が危惧されており、湖沼水質の保全が重要である。研究対象である野尻湖の水質状況を知らするためには、複雑な地形形状を有することを考慮すると、湖全域での水質観測が望ましい。本研究では、広域多項目水質観測で得られたデータをもとに、水質分布の空間特性を把握することを目的とする。

方法

野尻湖上の 29 地点を対象に多項目水質観測を行った。各地点で得られた水温・D_O・濁度・クロロフィル a の鉛直データを、上層（0～14m）、中層（14～20m）、下層（20～36m）に分割し、水質分布の空間特性を考察した。

結論

広域多項目水質観測の結果から、上層と下層における水平方向の水質分布と躍層の層厚に大きな差はなかった。しかし、躍層界面が南東-北西方向に傾いており、湖内で生じていた内部波の一場面を捉えた可能性がある。また、下層の一部（20～28m）において D_O が上昇しており、酸素を多く含んだ雪解け水が下層に侵入した可能性がある。

指導教員 豊田 政史 准教授